

平成21年11月14日(土)
午後3時40分～
今宮高校校長室にて

司会(教頭): ただいまより第2回学校協議会を開催いたします。

1 校長挨拶:

今宮高校は総合学科として14年目をむかえました。設立当初は珍しく注目されましたが、その後色々な学科ができました。「今宮総合学科」も現状のままで良いのかという意見があり、本校では「ビジョン21」で、今後のあり方を考えています。皆様のご意見を賜りたいと存じます。



2 事務局から報告

司会:

各学年等からの取り組みについて報告してもらいます。その後委員の皆様からご意見を頂きます。

3年学年主任:

今年度、休日に集中勉強会を実施しています。休日の8:30から18:00まで、会議室、特別教室、教室を利用して、広いスペースでゆったりした中で勉強できる環境をつくっています。最初はお盆の2日間、80名ぐらいの生徒が参加し、予想以上の成果があげられました。第2回目は、9月の5連休の中の3日間、初回とほぼ同数の生徒が参加しました。第3回目は10月10日・11日でした。第4回目の12月26日、12月27日はセンター入試の予想問題を本番と同じ時間帯で実施予定です。また、1月3日に、第5回の集中勉強会を予定しています。

去年までは、後期になりますと、欠席が増えましたが、今年は改善されています。集中勉強会等の活動による学校で勉強するという環境づくりの効果もあると思っています。

PTAからは集中勉強会の時に、お茶の差し入れをいただきました。保護者の方々のご理解、ご支援をありがたく思っています。

2年学年主任:

修学旅行(6/23～、3泊4日)は北海道の道東方面へ参りました。これまでは海外、国内の2カ所で同時に実施してきましたが、予算的に難しい面があり、今年より1カ所に絞りました。

総合学科なので生徒が自ら考えて班別に行動しました。無理なく、無駄なく実施でき、良い思い出となる修学旅行ができました。出発前には、生徒達が調べて目的地の紹介のプレゼンを行いました。終了後、報告の発表会を持ちましたが、生き生きとした修学旅行の様子がうまく発表できていました。

勉強の面では236名のうち200名前後が4年制大学へ進学を希望していますが、やや取り組みに甘い面が見られます。土曜日は、これまでも質問会を実施してきましたが、より積極的に、講習会を実施し、生徒達の意識を高め、お互いを高めあい、じっくり落ち着いて勉強する環境を作って行こうとしています。9月に入って募集しましたが、70名ぐらいが講習会に来ています。クラブを引退すれば参

加したいという生徒もいますが、部活の練習の始まる前の午前や練習が終わって午後のみ参加も可能です。自学自習の環境をきっちりと作って行ければと思っています。

1年学年主任：

1年生の80%以上がクラブに入部しています。テスト1週間前はクラブ停止、その間の土曜日には質問会を設けて指導しています。来年の台湾修学旅行については、班別行動を考えています。生徒達が主体的に取り組むことができるようにしていきたいと考えています。

進路部長：

1年の「産業社会と人間」、2年の「総合的な学習の時間」で、働いてどういうことかと考えながら、進路を考えさせています。先ほど学年主任から説明がありましたが、3年で学力向上のプロジェクトチームをつくり、その中の取り組みの一つとして集中勉強会をやっています。模擬テストについて、今年は実施後、「振り返り」をさせ、丁寧に活用するようにしています。今年は河合塾の模試を5月、8月、10月、11月に実施し、12月にはセンタープレテストを実施します。センター入試は171名出願しています。センター入試の結果を見て最終的な出願の相談をしますが、最後まで励まし、頑張らせたいと思っています。集中勉強会+講習は1月末までで、2月は個別指導を中心に指導していきたいと考えています。

指定校推薦入試については30名ほどの生徒が希望しています。指定校推薦の希望については一般入試で頑張りたいと募集定員に満たなかったところもあります。あと、国公立の推薦も若干応募がありました。

ビジョン21委員長：

総合学科を生かして、強い人を育て目標実現をめざしたいと考えています。学力向上をめざし、1年の「産業社会と人間」と2年の「総合的な時間」のさらなる充実等の検討をしています。

また教員の意識も高いものがありますが、なかなか進まずと言うところもあります。産業社会と人間」と2年の「総合的な時間」の内容をさらに高め、授業に関する教科会議を行い、指導の内容や方法を教員相互に確かめあい、我々の指導力の向上につなげていきたいと考えています。

3、研究協議

委員：

今の3年が入学してから、今宮高校が勉強に力を入れているのがよくわかります。数学が苦手な生徒が多いようですが、本当は数学が苦手ではないように思う。更に踏み込んでケアをお願いしたいと思っています。

委員：

集中勉強会は画期的なことだと思います。これからも続けて頂きたいと思っています。

「大学受験なら普通科」という意見がありますが、今宮総合学科では普通科の授業も含んだ選択も可能です。今宮高校は、すごく元気があります。うちの子は毎日楽しく学校に通っています。



委員：

部活をしつつも、がんばっている子はがんばっています。3年で三味線の授業を選択し、文化祭で皆の前で発表しました。交換留学生とのコミュニケーションや、ボランティアにも関心をもっています。普通科の高校ではこうは行かなかったと思います。

委員：

総合学科も14年できるよう回り始めたようですね。総合学科では国公立大学に行くことだけを目指しているわけではないと思います。自分で進路を選択する方が力がつきます。国公立の数だけみるのはちょっとどうかな、と思います。200名ほどが4年生大学への進学希望とのことですが、残りの30数名の進路はどうなっていますか。

事務局（進路部長）：

専門学校が中心です。看護系が多いですが、コンピュータ、理美容など多様です。公務員の希望者もいます。

3年の集中勉強会の成果として、学校にきっちり来て学習する雰囲気もできてきました。勉強の情報交換もしています。「いっしょに頑張ろう」と互いに励まし合って勉強する雰囲気を作っていければと考えています。

事務局（首席）：

今宮では、今年、3年対象の集中勉強会に加えて、平日や休日の個別講習の充実などで、お互い支え合って、最後まで粘り強く第1志望を目指そうという雰囲気を作ろうとしています。さて結果はどう出るでしょうか。

委員：

予備校の講師をしています。近年、自分で考えない生徒や打たれ弱い子どもが増えてきているように思われます。昔の生徒とは明らかに違います。この理由は、昔より競争が少なくなって、高校へ入るのが楽になったのが原因のように思います。

また、文系、理系をどう決めるかについて、理系は国語が苦手な生徒が行くようです。国語ができるか、できないで文系、理系を決めています。

今宮高校では、が嫌だから系を選ぶのではなく、が好きだから系へという方向で指導をお願いしたいと思います。

委員：

今は社会全体に余裕がありません。10年ぐらい前には個性重視の傾向がありました。今はすぐ結果を求める、求められる傾向にあります。平成23年度入試で文理科が募集を始めれば、今宮総合学科はどうなるのでしょうか。

今宮高校の生徒達は実直であるというイメージがあります。この信頼を大切にこれからの進む道をしっかりと考えていって欲しいと思います。

事務局（学年主任）：

国公立大学への進学数は増やすことができますが、進路先は今宮総合学科へ入学する生徒の意識により、上位の生徒が必ずしも国公立大学めざすとは限りません。これまで、トップの生徒が国立に行かないという例を何度も見てきました。

今宮は高い学力をもち将来に目的をもった生徒が多く集まります。そのため、多彩な授業があり、先生も多く配置されています。個性重視の進路実現と、国公立中心の進路実現の両立は難しい面がありますが、両方実現の期待もあります。

事務局（教頭）：

総合学科として、今宮はもっとコンセプトを発信して行かねばならないと思います。「老舗」の意識ではダメです。今宮は良い学校、元気な生徒、個性重視の教育、教育の王道をいくという意識があるようですが、外からはわかりづらいと思います。

事務局（首席）：

今高生は、目標をもって頑張るという意識が強いと思います。特に総合学科開設の初期は「私にしたい。そのために今宮で を学ぶ」と具体的に言える生徒が多かったと記憶しています。やりたい事が決まっていたら、もっと頑張れると思います。自分と向き合い、大学へ入ることだけが目標ではなく何をしたいかを考える必要があります。その上で、したいことが定まらない場合は、進路を絞らず広く学べと指導しています。

事務局（学年主任）：

自分を表現し、自分の考えを選び、自分の頭で考えるという総合学科の特色をスクーリングの発表会では活かすことができました。社会的にゆとりが無くなってきていますが、受験テクニックを考える前に、人前に立って話すこと「表現」することを学ぶことも大切です。この先、そういう学力もつけてやりたいと思っています。遠回りのように見えて近道であるということもあると思います。

委員：

子どもの中学校では、先生が劇の台本や役割分担などすべてやっておられる。生徒達の力が弱くなっているのでしょうか。今宮高校生は、自ら考え、表現するよう指導されていますね。

委員：

「表現」というのが、学習指導要領で後退しているようです。社会に余裕が無くなった現在、ゆとり教育が後退していることと関係しているように思います。

事務局（首席）：

今宮に入ってきた子どもを、我々は、伸びきったバネではなく、太い頑丈なバネにして送り出したい。文理科に追随するのではなく、公立高校にしかできない「ほんまもんの教育」に力を注ぐことが文理科に対抗する今宮の方向性ではないか。それを明確に示していくと、今宮は埋没しないであろうと思います。

委員：

今宮高校は今高高校であるというブランドイメージを大切にしたい。京大進学50名というのではありません。今宮らしい堅実な学力をつけて、進路実現を目指していただきたいと思います。

司会：

沢山のご意見をいただきましたので、これからの今宮高校校のことを考える際に参考にさせていただきます。

本日はありがとうございました。